

## 第78回 NPO 法人日本医学図書館協会総会 第4分科会

幹事会

日時：2007年6月1日（金）14：00～16：30  
 場所：大宮ソニックシティ  
 テーマ：現行医学雑誌所在目録における電子ジャーナル「所在」情報提供：これまでの経緯と今後の展望について  
 司会：宇野彰男氏（北里大学）

最初に、話題提供として桐原真哉氏（横浜市立大学）、浅井将行氏（昭和大学）から発表があり、その後、質疑応答と全体討論が行われた。

桐原氏からは、所属機関である横浜市立大学医学情報センターと、その本館である学術情報センターの事例を中心に、電子ジャーナル導入と相互貸借について報告された。医学情報センターは、蔵書構成の多くを国内誌が占めており、ILL 受付も国内誌中心であることが特徴である。電子ジャーナルは全学的に導入されており、NACSIS-CAT への登録およびその ILL 受付は本館（学術情報センター）で担当している。医学情報センターの電子ジャーナル情報は、NACSIS-CAT にも、現行医学雑誌所在目録にも掲載されていない。2つのセンター間で ILL 業務が特徴的に分業されており、蔵書の電子化と ILL 受付件数の変動は直接的にはリンクしていないとのことだった。

日本医学図書館協会出版委員会委員長である浅井氏からは、現行医学雑誌所在目録に関するこれまでの経緯と今後の展望、および発行されたばかりの2007年版の収載状況が報告された。

2000年に実施したアンケート<sup>1)</sup>の結果を踏まえ発行を続けてきたが、“もういらぬのではないか”、“いやまだ需要はある”とそれぞれの意見があり、再び需要調査が必要な時期にきている。2007年版から電子ジャーナルも収録対象とし、冊子と電子を一つの書誌に入れる形とした。電子ジャーナルの所在情報を掲載した機関のうち、約半数は ILL 受付可としている。

全体討論では、現行医学雑誌所在目録のものと異なる NACSIS-CAT への電子ジャーナルの所在情報掲載や、電子ジャーナルの ILL 受付可否、相互貸借の現場での対応など、電子ジャーナル導入における相互貸借の変化について意見が交わされた。現行医学雑誌所在目録については、NACSIS-CAT の情報が正確であれば不要とする一方、利用促進に向け、掲載内容や利用方法などいくつかの提案がされた。

4つのテーマで開催された分科会の中で、第4分科会の参加者は74名だった。電子ジャーナルの導入が進む中、相互貸借における明確な答えは無く、漠然とした不安を抱えている。他館の担当者の率直な意見を聞くことができ、今後の可能性を見出せたことは有意義だった。

## 参考文献

- 1) 浅井将行：「現行医学雑誌所在目録」に関するアンケート調査：結果報告．医学図書館．2001；48(1)：95-9.

(文責：春日井泉江／豊橋市民病院)